**聖霊降臨節第８主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年7月16日**

**「大胆に語らせてください」**

**詩編2編1～2節**

 **2:1 なにゆえ、国々は騒ぎ立ち／人々はむなしく声をあげるのか。**

 **2:2 なにゆえ、地上の王は構え、支配者は結束して／主に逆らい、主の油注がれた方に逆らうのか**

**使徒言行録4章23～31節**

 **4:23 さて二人は、釈放されると仲間のところへ行き、祭司長たちや長老たちの言ったことを残らず話した。**

 **4:24 これを聞いた人たちは心を一つにし、神に向かって声をあげて言った。「主よ、あなたは天と地と海と、そして、そこにあるすべてのものを造られた方です。**

 **4:25 あなたの僕であり、また、わたしたちの父であるダビデの口を通し、あなたは聖霊によってこうお告げになりました。『なぜ、異邦人は騒ぎ立ち、／諸国の民はむなしいことを企てるのか。**

 **4:26 地上の王たちはこぞって立ち上がり、／指導者たちは団結して、／主とそのメシアに逆らう。』**

 **4:27 事実、この都でヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民と一緒になって、あなたが油を注がれた聖なる僕イエスに逆らいました。**

 **4:28 そして、実現するようにと御手と御心によってあらかじめ定められていたことを、すべて行ったのです。**

 **4:29 主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語ることができるようにしてください。**

 **4:30 どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。」**

 **4:31 祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした。**

**「さて二人は、釈放されると仲間のところへ行き、祭司長たちや長老たちの言ったことを残らず話した。」（23節）と今日の聖書箇所は始まります。二人というのはペトロとヨハネです。そのペトロとヨハネが仲間の所に帰りました。仲間とはもちろん教会のことです。ペトロとヨハネは教会に帰ったのです。教会に帰り祭司長たちや長老たちから言われたことを一つ残らず話しました。嬉しい話なら良かったのでしょうが、残念ながら嬉しい話ではありません。ペトロとヨハネは時の権力者たちから「イエス様の名によって語ること教えることを禁じられた」のです。その嬉しくないと言いますか厳しい知らせを教会に帰って教会の仲間に伝えました。**

**これはこれから始まるキリスト教会への迫害の予兆です。ペンテコステに誕生した教会は3.000人、5.000人と人数が増え、心を一つにして祈り、共に神様を礼拝し、食事をし讃美をし、恵みを分かち合ってどんどん成長していました。ペトロとヨハネはイエス様の力によって癒しの奇跡を行い、イエス・キリストの十字架と復活の福音を語りました。そのようにどんどんと成長する教会にとって初めての試練が訪れたのです。その試練は教会にとって一番大切なイエス様の十字架と復活の福音を語り愛の業を行うことを禁じられるという教会が教会たることを根本から否定される厳しい試練でありました。**

**そのような厳しい試練の報告を受けた教会はどうしたのかといいますと24節にありますように「心を一つにして、神に声を向って言う」すなわち祈るのです。教会の仲間は試練の中で「どうしよう」と不安に陥るのでもなく、「そんな脅しにあったのなら私たちの身が危ないから語るのを控えておこう」と脅しに屈するのでもありません。皆が心を一つにして祈るのです。**

**しかもその祈りは「脅しから私たちを守ってください」とか「危険が過ぎ去りますように」と神様の守りを祈ったのではないのです。そういうふうに祈ってもおかしくないところですが、最初の教会はそのような祈りはしませんでした。**

**「主よ、あなたは天と地と海と、そして、そこにあるすべてのものを造られた方です。」（24節）とありますようにまず父なる神様が天地の造り主、私たちの造り主であることを褒め称え信仰の告白をしています。その上で今日の旧約聖書の詩編2編1～2節を引用した上でまさにこの聖書の言葉が実現したんだ。ヘロデやポンティオ・ピラトと言った指導者たちがイスラエルの民と一緒になって真の救い主イエス・キリストを十字架につけて殺したのは全て神様あなたのご計画の通りであり、そしてイエス様が復活されたこともあなたの御心が行われたのです。と全て神様の御計画通りであり神様の御心が行われたことを感謝しているのです。**

**さらに驚きは29節で「主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め」と祈ります。イエス様の十字架と復活の福音を語ることを禁じられるという脅しにあった教会ですが、教会はその脅しを止めさせてくださいと祈りません。彼らが脅しなどしないようにしてくださいと祈らないのです。その脅しをじっと見ていてください。ご覧になってください。と祈るのです。それはその脅しもまた神様のご計画の中にあるという神様への信頼を表しているのです。なかなか思いつかないような考えですが、彼らの脅しもまた神様のご計画であり御心のままに行われている、だから彼らの脅しを止めないでじっ見ていてくださいと神様への深い信頼を現わすのです。**

**その深い深い信頼の上で「あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語ることができるようにしてください。どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。」（29・30節）と祈るのです。**

**脅しという苦難や困難を取り除き、何の苦難も困難もない安心した状態で思い切って大胆にあなたの御言葉を語ることができますように、愛の業が行われますようにと祈るのではないのです。脅しという苦難や困難もあなたの御心ですからあなたの御心のままに行ってください。私たちはあなたが与えた苦難や困難の中でこそ思い切って大胆にあなたの御言葉を語ることができますように、愛の業が行われますようにと祈るのです。このように教会が心を一つにして祈ることができるのには、教会全体が神様に対して深い深い信頼があるからです。全ては御心のままに行われますように。この深い信頼があるからこそなのです。**

**そしてどうして教会がそこまで神様に深い深い信頼をして「御心が行われますように」と祈ることができるかと言いますと、イエス様ご自身がそのように祈られたからです。あの十字架の死を前にしたゲツセマネの園でイエス様が血の汗を流し必死で祈られたあの祈りがあるからです。「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」（マルコ14：36）**

**そのように祈られて私たちの罪を背負って苦しみを担って十字架に掛かってくださったイエス様が教会におられるからです。ご自身の願いではなくてどこまでも神様の御心を求め、神様の御心がなりますように祈って神様に深い深い信頼をなされた十字架と復活のイエス様が教会の頭として教会と共に歩んで下さるからです。だからこそ、苦しみや困難を取り除き楽な状態で御言葉を語らせてくださいとは祈らないのです。困難な中でも苦しみの中でも、いや困難や苦しみもあなたの御心でありあなたのご計画の中にあります。それはあなたが与えて下さったものです。あなたはその困難や苦しみを通してなそうとしていることをなしてください。私たちはその困難や苦しみの中でこそ思い切って大胆に御言葉を語ることができますように。愛の業をなすことができますように御手を伸ばしてください。教会はそして私たちはそのように神様を全面的に信頼して心を一つにして祈るのです。**

**教会の歩みにおいても私たちの歩みにおいても苦しいことや辛いことや困難なことが**

**ないほうが楽でいいに決まっています。何事も順風満帆で自分の思い通りに物事が進み、願った通りのものが与えられて楽して日々の歩みができる、教会に何の問題もなくどんどんどんどんと人が押し寄せてくる、そんな歩みは楽でしょうが、実際にそんな人生を歩み教会がそうだったら神様を信頼して祈らなくなるでしょう。順風満帆な時こそ神様から離れてしまう危険な時というようなことを聞いたことがあります。**

**苦難にも神様の御心が現われているのです。苦しみにも意味があり悲しみにも意味があるのです。神様はそのことを通して何かをなそうとされているのですから。だからこそ私たちは神様を全面的に信頼して「私たち思いではなく、神様の御心が行われますように」と祈るのです。さらに「困難や苦しみの中でこそ思い切って大胆に御言葉を語ることができますように。愛の業をなすことができますように御手を伸ばしてください」と心を一つにして神様を全面的に信頼して祈るのです。**